

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢はやや弱含んでいる。

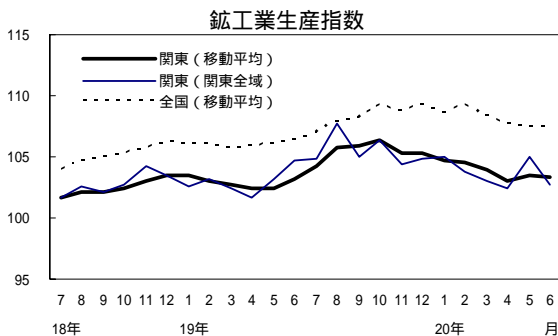
#### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年5月）	今回（平成20年8月）	
景況判断	回復の動きに足踏み	やや弱含み	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
住宅建設	減少	大幅に減少	
雇用情勢	改善の動きに足踏み	やや弱含み	

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。（関東全域）

輸送機械は、小型乗用車が好調であったものの、普通乗用車や二輪自動車が低調であったため、2四半期連続で減少している。化学は、原材料高により食品トレーに使われるスチレンモノマーや連結材のフェノールなどの樹脂を中心に生産調整が影響し、振るわなかったものの、医薬品が好調であったため、3四半期ぶりに増加している。一般機械は、国内及びアジア向けの半導体製造装置が不調であったため、2四半期連続で減少している。電気機械は、鉄道会社向け開閉制御装置、電力会社向け非標準変圧器が好調で、増加している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

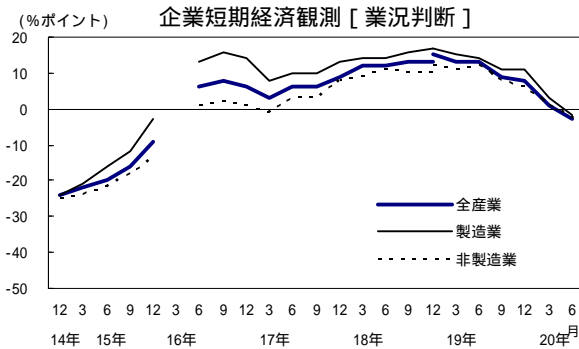
##### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期		
輸送機械	15.2	3.8	0.4	0.4	5.4		
化学	13.4	3.7	2.4	0.2	1.1		
一般機械	13.2	3.6	3.2	0.3	9.1		
電気機械	7.8	5.2	1.3	0.0	2.0		
食品・たばこ	7.1	2.8	2.1	0.1			
鉱工業	100.0	1.1	0.6	1.8	0.7		

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4~6月期は速報値。  
3. 食品・たばこの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

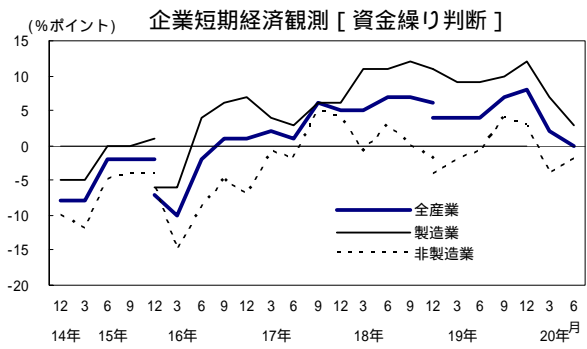
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

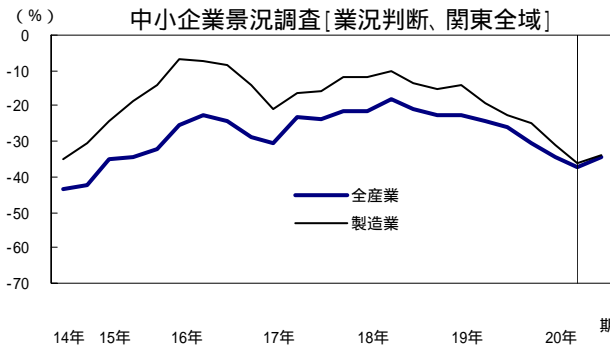
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

15年12月までは関東全域、以降は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「客は必要枚数のみ印刷するようになっている。以前は多少余分に印刷する傾向にあった(出版・印刷・同関連産業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「3、4月くらいまでは人手が足りず、人材募集を行っていたが、7、8月は仕事がなく、パートの勤務時間を短縮する、休日を増やす等の対処をしている。このような状況は数年ぶりであり相当に悪い(電気機械器具製造業)」など、「悪くなっている」とする回答もみられた。

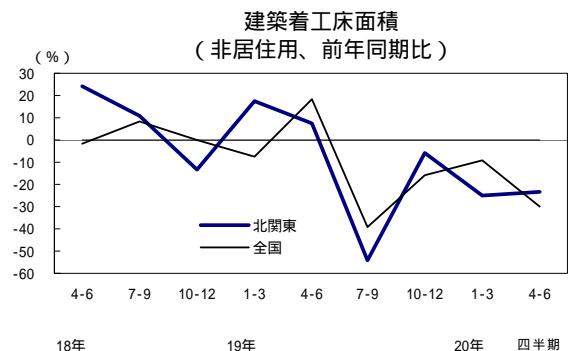
(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	10.0 [ 7.2 ]	12.6 [ 6.4 ]
製造業	2.2 [ 0.9 ]	0.3 [ 1.7 ]
非製造業	27.1 [ 19.1 ]	26.6 [ 16.3 ]

(備考)[ ]は前回(3月)調査結果。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

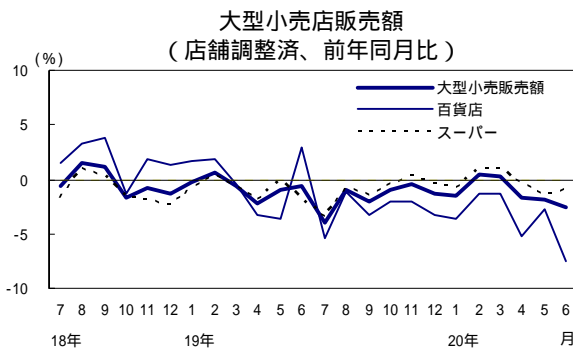
(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、天候不順のため主力の衣料品が不調であり、美術品等その他高額商品も低調であったことから、前年を下回った。5月は、国産野菜が好調で飲食料品の動きが良く、紳士物スーツやジャケット等の衣料品が不調であったことから、前年を下回った。6月は、引き続き飲食料品の動きは良く、衣料品ではクールビズ商材に動きがあったものの、気温が低く雨が多かったことから全般に夏物商材が伸び悩み、12か月連続で前年を下回った。スーパーは、「こどもの日」、「父の日」などの催事への対応や、プライベート商品が好調であったが、衣料品は振るわず、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

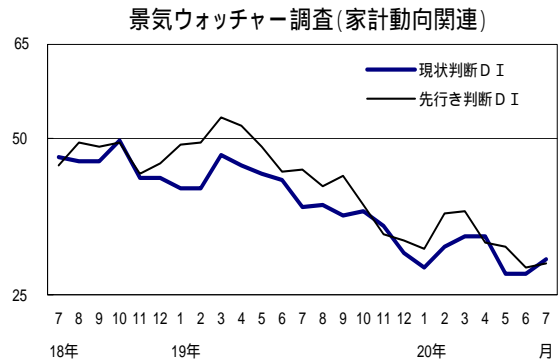
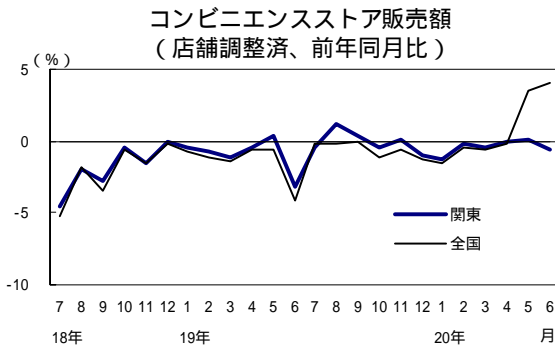
「燃料高騰のためプライベートでの旅行を見合わせる様子がかがえる。海外旅行の問い合わせが減少しているが、その分国内が好調かと言うとそうでもない。例年、この時期の北海道は売れ筋だが、洞爺湖サミットのため減少している(旅行代理店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月
大型小売店	2.3	0.9	0.3	2.1
百貨店	3.5	2.6	2.2	5.2
スーパー	1.9	0.3	0.4	1.0
コンビニ	0.3	0.5	0.7	0.2
景気ウォッチャー	38.6	35.4	32.2	30.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。20年4-6月期は速報値。コンビニは関東全域。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

